

性的指向における「決めたくない・決めていない」の回答を探る  
— 「性的指向・性自認に関する設問の改善に向けた試験的調査」の結果より—

釜野さおり・平森大規・石田仁・岩本健良・小山泰代・千年よしみ・  
藤井ひろみ・布施香奈・山内昌和・吉仲崇

本報告では、2020年3月に実施した「性的指向・性自認に関する設問の改善に向けた試験的調査」（以下、SOGI 設問の試験的調査）から、性的指向の自認における「決めたくない・決めていない」の回答を掘り下げた分析結果について紹介する。

## 1. 背景と目的

本研究チームでは、2019年1月～2月、大阪市の住民基本台帳から無作為に対象者を抽出して実施した「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」（以下、大阪市民調査）において、回答者に性的指向の自認（回答者自身が異性愛者、同性愛者、両性愛者、無性愛者などのうち、どれに当てはまると認識しているか）をたずねた。同調査で使用した設問は、先行研究のみでなく、事前に行ったグループインタビューやメールアンケートで収集した意見を参考に作成した。その設問を用いた結果では、「決めたくない・決めていない」および「質問の意味がわからない」の選択肢を選んだ回答者が、同性愛者、両性愛者、無性愛者の選択肢を選んだ回答者より多く存在していた。

今回実施した SOGI 設問の試験的調査の目的は、第一に、大阪市民調査では解釈が困難であった上記の「決めたくない・決めていない」および「質問の意味がわからない」の選択肢が選ばれる理由を調べることであり、第二に、性的指向および性自認の設問で、異なる選択肢や質問文を用いた際の回答分布の違いを検討することである。これらの検討を通じて、国内では前例のない中で実施された無作為抽出調査において、当該設問を用いた結果を精査し、設問を再評価することを目指す。

諸外国では、調査票調査（調査票を用いた量的調査）において、どのような設問で性的指向の自認をとらえるのがよいのか、特に対象者の性的指向に関わらず用いることのできる汎用性のある設問を検討する研究が蓄積しつつある。その中には、「その他の何か」（Something else）、や「わからない」（Don't know）といった選択肢が選ばれた背景を探り、設問を改善していく研究も行われている（詳しくは付録1を参照）。

本報告では、これらの先行研究も参考にして設計した SOGI 設問の試験的調査における「決めたくない・決めていない」の回答についての分析結果を示す。

## 2. 方法

- データ収集方法：インターネット調査（調査実施期間：2020年3月23日～30日）
- 対象：インターネット調査会社にモニタ登録している、全国の18～59歳（1社の自社モニタを利用）
- 割付：本調査の回答者を性別と年齢階級別によって均等に割り付け、性的指向の自認で「決めたくない・決めていない」と回答する人を、詳細分析のために一定数確保し、さらに「ふまじめな回答」をする可能性のある人を除外する目的で事前にスクリーニング調査を実施（詳細は付録2を参照）
- 総質問数：51問
- 有効回収数：2394

### 3. 結果

#### (1) 有効回答数および「決めたくない・決めていない」の選択者数

スクリーニング調査の完了数は 7139、本調査における有効回答数は 2394、そのうち、「決めたくない・決めていない」の選択者数は 159 (6.6%) であった (表 1)。「決めたくない・決めていない」以外の回答は、多い順から、「異性愛者」、「質問の意味がわからない」、「バイセクシュアル・両性愛者」、「アセクシュアル・無性愛者」、「ゲイ・レズビアン・同性愛者」であった。なお、この分布は、性的指向の自認の設問(「次の中で、あなたにもっとも近いと思うものに 1 つ印をつけてください。»)に「決めたくない・決めていない」と回答する人を一定数集めるべく、スクリーニング調査によって該当者を優先的に本調査に案内した結果である。

表 1 性的指向の自認の設問における「決めたくない・決めていない」の選択者数と割合

	n	%
<b>決めたくない・決めていない</b>	<b>159</b>	<b>6.6</b>
<b>決めたくない・決めていない以外</b>		
異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等でない [異性のみに性愛感情を抱く人]	2014	84.1
質問の意味がわからない	90	3.8
バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人]	62	2.6
アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人]	49	2.0
ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人]	20	0.8
<b>全体</b>	<b>2394</b>	<b>100.0</b>

#### (2) 「決めたくない・決めていない」を選んだ理由

性的指向の自認の問いで「決めたくない・決めていない」と回答した 159 人に対し、それを選んだ理由をたずねた。理由として「その他」と回答した人には、その内容を具体的に記入してもらった。また、「間違っこの選択肢を選んでしまった」と回答した人には、性的指向の自認の設問を再度たずねた。

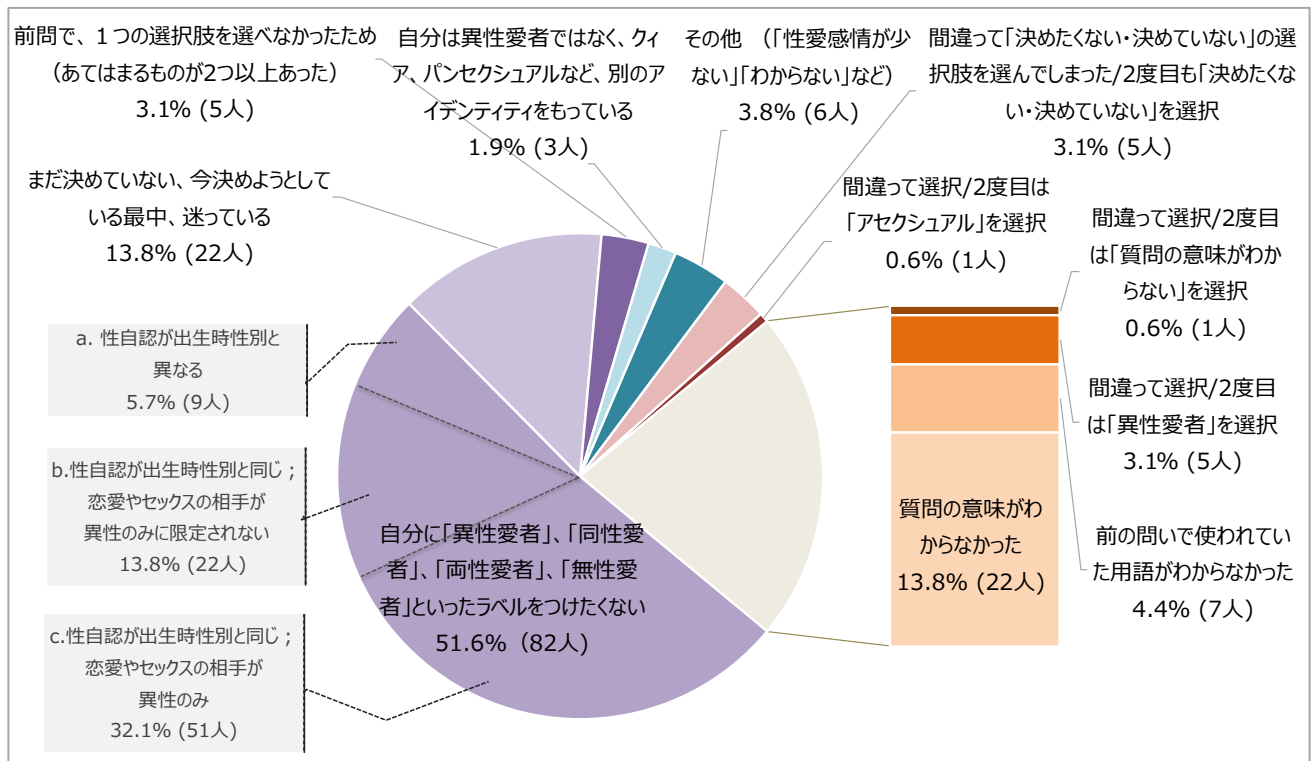
図 1 に、これらの問いへの回答を統合して集計した結果を示す。159 人中、もっとも多くの人を選んだのは「自分に「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」、「無性愛者」といったラベルをつけたくない」で、51.6% (82 人)、次に多かったのが「まだ決めていない、今決めようとしている最中、迷っている」と「質問の意味がわからなかった」で、それぞれ 13.8% (22 人) であった。

「間違っこの選択肢を選んでしまった」人は 7.5% (12 人) で、そのうち 2 度目は「異性愛者」とした人は 3.1% (5 人)、2 度目は「アセクシュアル・無性愛者」とした人、および「質問の意味がわからない」とした人はそれぞれ 0.6% (1 人)、2 度目も「決めたくない・決めていない」を選んだ人は 3.1% (5 人) であった。

「決めたくない・決めていない」の理由でもっとも多かった「自分にラベルをつけたくない」を選んだ 82 人については、性自認が出生時の性別と同じか異なるかによって分け、異なる人については、さらに恋愛感情を抱く相手、性的に惹かれる相手、セックスの相手(「恋愛やセックスの相手」と略記)が「異性のみ」の人と「異性のみに限定されない」人に分けて人数を示した(図 1 左のグレーの枠のとおり。付録 3(2)を参照)。

- a. 性自認が出生時の性別と異なる
- b. 性自認が出生時の性別と同じ；恋愛やセックスの相手が「異性のみに限定されない」
- c. 性自認が出生時の性別と同じ；恋愛やセックスの相手が「異性のみ」

図1 「決めたくない・決めていない」を選んだ理由の内訳 (n=159)



#### 4. まとめ

本報告では、調査票調査における SOGI 設問を精査するために行なったモニタ型ウェブ調査に基づき、性的指向の「決めたくない・決めていない」の回答の詳細を分析した結果を示した。この分析により、「決めたくない・決めていない」が選択される背景はさまざまであることが明らかになった。したがって、調査票調査によって、性的指向の自認をとらえる際には、性的指向の自認をたずねる設問に加え、「決めたくない・決めていない」と回答した人に、その理由をたずねる設問を含めることが望ましいと言える。また、性的指向の自認をたずねる設問や「決めたくない・決めていない」の回答をどのように扱うか、を標準化することは、調査間での結果の比較をしやすくし、今後の研究の進展にも寄与すると考える。

上記の分析では、人々の性的指向のあり方は、必ずしも「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」といった形で厳格に分かれている・分けられるものではなく、複雑で多面的であることが定量的に示された。ただしこの結論は、調査票調査で個々人の性的指向を設問で把握し、性的指向別の分析を行うことを否定するものではない。むしろ、ここで試みたように、各カテゴリ、各自認における詳細にも目を配りながら、性的指向による分類を便宜的に行い、性的指向の自認によるウェルビーイングの比較分析を進めることが不可欠であると考えられる。そのためには、調査対象者の性的指向の自認にかかわらず用いることのできる、性的指向をとらえる設問の研究をさらに進め、データを蓄積していくことが重要である。

※ 本調査は、JSPS 科研費 16H03709 「性的指向と性自認の人口学—日本における研究基盤の構築」の助成を受け、国立社会保障・人口問題研究所 研究倫理審査委員会の承認を得て実施したものである(承認番号 IPSS-IBRA #19005)。

## 付録 1：性的指向の自認をとらえる設問の先行研究

アメリカ (Federal Committee on Statistical Methodology 2018)、イギリス (Office for National Statistics 2018)、カナダ (Dharma 2016)、ニュージーランド (Pega, et al. 2010) をはじめとした国々では、専門家たちが試験的調査を繰り返しながら研究を進めている。例えばアメリカの National Survey of Family Growth では「その他の何か」("Something else") の選択肢を選んだ人に具体的に記入を依頼したところ、その多くが既存の選択肢に振り分け可能であったことから、その後の調査で用いた設問では一部の選択肢をわかりやすく改善した上で、「その他の何か」を削除している (Chandra, et al. 2011)。同様に、National Health Interview Survey の設問の検討において、National Survey of Family Growth で用いられた問いの選択肢をどのように理解したかをたずねる質的調査を行なった結果、「その他の何か」(Something else)、や「わからない」(Don't know)の回答が選択される理由には、自分の性的指向を決めていない・迷っている、提示された選択肢以外の性的指向を持っている、他の選択肢に振り分けることができる、用語の意味がわからないなど、さまざまなものがあることから、追加の問いを設けて詳細をたずねることが提案されている (Miller and Ryan 2011)。

## 付録 2：調査方法の詳細

### (1) 調査の設計

一般にモニタ型ウェブ調査では、ある条件を満たす回答者を一定数集めるため、本調査に先立ち、事前にスクリーニング調査が行われる。今回の調査では、スクリーニング調査に性別、年齢、性的指向の自認の問いを含め、全体の目標回収数を 1400 とし、性別 (男・女の 2 区分)、年齢階級 (18-29 歳、30-39 歳、40-49 歳、50-59 歳の 4 区分) の 8 区分それぞれが 180 サンプル (50-59 歳は 160 サンプル) となるように設定した。さらに性的指向の自認の設問における「決めたくない・決めていない」の回答が各区分の 15% (合計 210 サンプル) を占めることを目指した。また、スクリーニング調査の段階で「ふまじめな回答者」を除外する措置を講じた。なお、本調査には性的指向をたずねる設問が複数あり、回答順によって回答傾向が変わる可能性があることから、調査での表示順が異なる 6 種の画面を作成し、各区分の中でランダムに振り分けた。

### (2) スクリーニング調査の回答状況と本調査における有効回答の確定

スクリーニング調査の開始数は 7263 件、年齢条件を満たした完了数は 7139 件、そのうち「ふまじめな回答者」を除外する 2 段階プロセス (下記(3)を参照) を通過したのは 5005 件であった。その後、本調査画面にアクセスし、回答が開始されたのは 2814 件、そのうち、最後まで回答されていないもの、回答された年齢が対象範囲外のもの、選択肢「その他」の記述欄に無関係な内容が記入されたもの、トラップ設問への不正回答、重複回答が疑われた場合の 2 回目以降の回答は無効とし、最終的に 2394 件を有効回答と判断した。

### (3) 「ふまじめな回答者」の除去について

モニタ型ウェブ調査では、調査後に謝礼として付与されるポイント等を得るために、できるだけ労力をかけずに早く多くの調査に回答しようとして、指示や設問をよく読まずに回答するモニタが一定数いることが、かねてから指摘されてきた (satisfice 行動、努力の最小化)。たとえば、三浦・小林 (2015) による実験では 1 社では 51.2%、別の社では 83.8% のスクリーニング段階での読み飛ばし率が確認されている。近年では事前にこうした回答者を特定し、調査から除外する試みがなされるようになってきている。この調査では、三浦(2019)

に倣い、まずスクリーニング段階で、調査の説明を読んだ上で調査参加に同意するという確認回答を、1度目に指示どおりに行った対象者（"compliers"）と、1度目は正しく行わなかったが2度目は注意を促された上で指示どおりに行った対象者（"converts"）が本調査に誘導された。つまり2度とも指示通りに確認を行わなかった対象者（"satisfiers"）は、本調査に誘導しないという設定にした。さらに、本調査にも「この問いでは右から2番目の選択肢を選んでください」、「この選択肢は選ばないでください」というトラップ設問を2問入れ、正しく回答されなかった場合は分析から除外した。

### 付録3：設問の一覧および分類の詳細

#### (1) 性的指向の自認をたずねる一連の問い

問 26 次の中で、あなたにもっとも近いと思うものに1つ印をつけてください。

- 異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等でない [異性のみに性愛感情を抱く人]
- ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人]
- バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人]
- アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人]
- 決めたくない・決めていない (問 27 へ)
- 質問の意味がわからない

問 27 前問で「決めたくない・決めていない」を選んだ理由として、もっとも近いものを1つ選んで印をつけてください。

1. 自分は異性愛者ではなく、クィア、パンセクシュアルなど、別のアイデンティティをもっている(問 29 へ)
  2. 自分は、トランスジェンダー、性別違和、性同一性障害にあてはまる
  3. まだ決めていない、今決めようとしている最中、迷っている
  4. 前問で、1つの選択肢を選べなかったため（あてはまるものが2つ以上あった）
  5. 自分に「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」、「無性愛者」といったラベルをつけていない・つけたくない、分類しない・したくない
  6. 前の問いで使われていた用語がわからなかった
  7. 質問の意味がわからなかった
  8. 間違って「決めたくない・決めていない」の選択肢を選んでしまった (問 28 へ)
- その他（具体的に： ）※あてはまる選択肢が2つ以上ある方も、この欄にそれらの番号を入力してください。<前問で「決めたくない・決めていない」を選んだ理由をご記入ください。>

問 30 もう一度おたずねします。次の中で、あなたにもっとも近いと思うものに1つ印をつけてください。（選択肢は問 26 と同じ）

#### (2) 図1で示した「ラベルをつけたくない」と回答した人についての追加分類

自分にラベルをつけたくないという回答の中には、性的指向をまったく意識したことがない場合や、カテゴリーを当てはめて分類しようとすることに疑問を持っている場合など、さまざまなものが考えられる。とりわけ、性自認のあり方や恋愛などの経験によっても「ラベルをつけたくない」という回答の意味が異なる可能性があることから、参考までに図1で以下の3つのグループ別の人数を示した。詳細の検討については、今後の研究課題としたい。

- a. [性自認が出生時性別と異なる]
- ・自認する性別が出生時の性別と同じか否かの問いで、「別の性別だととらえている」、「違和感がある」のいずれかまたは両方を選択し、かつ
  - ・現在自認する性別（男／女／その他）が、出生時の性別（男／女）と異なる
- b. [性自認が出生時性別と同じ；恋愛やセックスの相手が異性のみに限定されない]
- ・自認する性別（男／女／その他）が出生時の性別（男／女）と同じで、かつ
  - ・恋愛感情を抱く相手、性的に惹かれる相手、セックスの相手の1項目以上で、「ほとんど異性」、「男性と女性同じくらい」、「ほとんど同性」、「同性のみ」、「(該当する経験が)ない」のいずれかを選択
- c. [性自認が出生時性別と同じ、恋愛やセックスの相手が異性のみ]
- ・自認する性別（男／女／その他）が出生時の性別（男／女）と同じで、かつ
  - ・恋愛感情を抱く相手、性的に惹かれる相手、セックスの相手の3項目とも「異性のみ」と回答

上記の分類は、性別・性自認に関する3つの問（問23、問24、問25）の回答と、これまでに恋愛感情を抱いた相手、性的に惹かれる相手、セックスの相手（問34、問35、問36）の回答が出生時性別からみて「異性のみ」であるか、異性のみに限定されないか、に基づく。

問23 あなたの性別に印をつけてください。[出生時の戸籍・出生届の性別]

※「出生時」とは、生まれたときにもっとも近い時点のことをさします。

男／女

問24 あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別(前問で印をつけたもの)と同じだととらえていますか。あてはまるものすべてに印をつけてください。

出生時の性別と同じ／別の性別だととらえている／違和感がある

問25 前問で、「別の性別だととらえている」や「違和感がある」に印をした方は、今の認識をお答えください。

今の認識にもっとも近い性別（1つに印）

男／女／その他（具体的に： ）

問34 あなたが恋愛感情を抱く相手：これまでのこと

男女どちらにも恋愛感情を抱いたことがない／男性のみ／ほとんどが男性／男性と女性同じくらい／ほとんどが女性／女性のみ

問35 あなたが性的に惹（ひ）かれる相手：これまでのこと

男女どちらにも性的に惹かれたことがない／男性のみ／ほとんどが男性／男性と女性同じくらい／ほとんどが女性／女性のみ

問36 あなたがセックスをする相手：これまでのこと

セックスをしたことがない／男性のみ／ほとんどが男性／男性と女性同じくらい／ほとんどが女性／女性のみ

## 参考文献

- Chandra, A., WD. Mosher, C. Copen and C. Sionean, 2011, *Sexual Behavior, Sexual Attraction, and Sexual Identity in the United States: Data from the 2006–2008 National Survey of Family Growth*, National Health Statistics Reports 36, Hyattsville, MD: National Center for Health Statistics.
- Dharma, Christoffer, 2016, "Evaluation of Sexual Orientation Items in Population Health Surveys Among Canadians: A Mixed Methods Approach," Electronic Thesis and Dissertation Repository 3977, (Retrieved June 12, 2020, <https://ir.lib.uwo.ca/etd/3977>).
- Federal Committee on Statistical Methodology, 2018, *Measuring Sexual Orientation and Gender Identity Research Group*, (Retrieved June 12, 2020, <https://nces.ed.gov/FCSM/SOGI.asp>).
- Miller, Kristen and J. Michael Ryan, 2011, Design Development and Testing of the NHIS Sexual Identity Question, (Retrieved May 22, 2020, <https://www.impactprogram.org/wp-content/uploads/2011/11/Miller-2011-HHS-report-on-measuring-sexual-orientation.pdf>).
- 三浦麻子・小林哲郎, 2015, 「オンライン調査のモニタの Satisfice はいかに実証的知見を毀損するか」『社会心理学的研究』 31(2): 1-12.
- 三浦麻子, 2019, 「ウェブ調査における回答者の努力の最小限化—Satisfice 行動がデータの質に及ぼす影響—」一般社団法人輿論科学協会 創立 74 周年記念行事, 2019 年 10 月 21 日 (公益財団法人日本文化興隆財団 代々木会議室) .
- Office for National Statistics, 2018, 2021 Census Topic Research Update: December 2018 (Retrieved May 22, 2020, <https://www.ons.gov.uk/census/censustransformationprogramme/questiondevelopment/2021/censustopicresearchupdatedecember2018#sexual-orientation>).
- Pega, Frank, Alistair Gray and Jaimie Veale, 2010, *Sexual Orientation Data in Probability Surveys: Improving Data Quality and Estimating Core Population Measures from Existing New Zealand Survey Data*, Official Statistics Research Series, Vol.2010-2 ISSN 1177-5017; ISBN 978-0-478-35360-0.

## 本報告に関する連絡先

科学研究費助成事業「性的指向と性自認の人口学—日本における研究基盤の構築」

研究代表者 釜野さおり (国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部 第2室長)

Tel: 03-3595-2984 (内線 4472) E-mail: [osaka-chosa@ipss.go.jp](mailto:osaka-chosa@ipss.go.jp)

URL: <http://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI/index.asp>

---

性的指向における「決めたくない・決めていない」の回答を探る  
— 「性的指向・性自認に関する設問の改善に向けた試験的調査」の結果より —

発行日： 2020年7月1日 第1版第1刷発行  
著作： 釜野さおり・平森大規・石田仁・岩本健良・小山泰代・  
千年よしみ・藤井ひろみ・布施香奈・山内昌和・吉仲崇

編集・発行： 「性的指向と性自認の人口学—日本における研究基盤の構築」  
(代表 釜野さおり)  
〒100-0011 千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F  
国立社会保障・人口問題研究所 内

---